

海外青年交歓研修会を担当して

伊勢崎ユネスコ協会

平成二十五年度の群馬県ユネスコ連絡協議会のホスト事業として、九月二十八日(土)に海外青年交歓研修会を開催させて頂きました。県内ユ協の皆様と伊勢崎ユ協の会員とで六十五名の参加者でした。開催準備に話し合いをもちました。どんな研修会にしたら皆様にとつて有意義であり、楽しんでいただけるかと思いを合いました。伊勢崎は群馬県内で最も多くの外国人が生活している自治体ですが、パネラーとしてお話をさせて頂く外国青年を探すのはむずかしい。そこで国際交流課へお願いに行きました。主旨を説明したところ心よく理解していただき、四人のパネラーを推薦して下さいました。いよいよ本番になりました。

開会行事として、ユネスコの歌斉唱・高野知子伊勢崎ユ協会長・関口実県協長のあいさつ、来賓として伊勢崎教育委員会の徳江基行教育長を迎えあいさつをいただきました。日程及び会場説明の後「伊勢崎市の多文化共生社会づくりについて」茂木萌南国際課主任よりお話がありました。次に休憩をとりお茶を飲みながら歓談しました。休憩の後は、四人の外国青年の体験発表です。朝倉平(ベトナム)、バックリー・シヤタニ・モーリー(オーストラリア)、



比嘉グロリア(ペルー)、船戸嘉津実(ブラジル)、皆さん言葉や文化の違いで苦労なさったようですが、日本語のうまいのにびっくりしました。私達ユネスコ人も外国人との懸け橋になって少しでも役に立てたらと思います。和気あいあいの雰囲気の中で昼食をいただきました。アトラクションとしてモンゴルのオドバールの民謡を聴きました。民族衣装を着て会場いっぱいひびく歌声は、モンゴルの大草原を思い出させるものでした。次に焼きまんじゅうを焼く体験をしていただきました。庭に炭を用意したり、まんじゅう、串、たれ等は、ガールスカウト、ボーイスカウトが準備して下さいました。皆様、おいしく焼けたでしょうか?又、朝早くからありがとうございます。海外青年交歓研修会も無事終了することが出来ました。

運営研修会兼事務局員研修会

七年ぶりに沼田市に於いて開催される

去る十月十九日(土)午後一時三十分より「沼田ロイヤルホール」に於いて「平成二十五年度群馬県ユネスコ連絡協議会運営研修会兼事務局員研修会」が開催されました。

今回は、各地域のユネスコ協会が目指す方向性の理解と、ユネスコスクールの普及・促進が一歩でも前進することを願うの開催とし、県内各ユネスコ協会の役員など三十八名が参加しての研修会となりました。

開会行事では、来賓として出席いただいた沼田市会議議長(副議長代理出席)、沼田市教育長の二名から祝辞を頂戴し、花を添えていただきました。

開会行事終了後、元沼田女子高校教頭の前澤直久先生による記念講演「沼田河岸段丘と、ユネスコ・世界ジオパーク登録を目指す活動」となり、先生の熱心な講話に耳を傾けました。講演の終盤、「沼田の歌」の歌詞についての説明がなされる際、急遽、飛び入り参加として「沼田の歌」の独唱が披露されました。講演後の質問も相次ぎ、大変盛り上がった講演会となりました。

その後、「ユネスコスクール普及のための活動の現状と課題」のテーマのもと、情報交換会が開かれました。

初めに、ユネスコスクールをもつ「高崎ユネスコ協会」(須田会長)、「藤岡地方ユネスコ協会」(櫻井事務局長)、「前橋ユ



沼田河津段丘とユネスコ・世界ジオパーク登録を目指す活動。ユネスコ・世界ジオパーク登録推進員 前澤直久先生

ネスコ協会」(庭屋会長)の三つのユネスコ協会から「ユネスコスクールの現状と課題」について報告をいただきました。そして、課題解決へのキーワードとして、①行政(特に教育長)への働きかけと理解促進(学校教育課と社会教育課の連携)、②小中学校への働きかけ、③小中学校等の管理職(特に校長)の意識改革、④教員への働きかけ、などが提示されました。

釣瓶落としの秋の日の午後、閉会してからも情報交換があちこちでなされるなど、中身の濃い充実した研修会となりました。ご参加いただきました皆様を始め、ご支援・ご協力をいただきました関係者の皆様に改めて感謝を申し上げます。